

調査の内容

1. 大学等における活用事例調査 ((a) アンケート方式及び(b)インタビュー方式)

大学等による各資格・検定試験の入学者選抜における活用事例を収集・分析し、活用手法の効果・課題等について整理する。

2. 大学受験生の民間試験の活用に関する意識調査 (アンケート方式)

大学の入学者選抜における英語の民間試験の活用の方針についての大学受験生の意識を調査・分析し、大学における民間試験の活用方法の検討の参考とする。

調査対象者

1. 入学者選抜において民間の各資格・検定試験を積極的に活用している、又は活用を予定している大学の事務担当者

- ◆ (a) 全国公私立大学に対し、一般的な活用状況・具体的内容等についてアンケート調査
- ◆ (b) より限定した大学 (※ 4 技能HP掲載大学、SGU等を想定、9～12 大学程度) に対し、活用にあたっての考え方 (e.g. アドミッション／カリキュラム／ディプロマ・ポリシーとの関連等)、意思決定プロセス等の詳細な取組み状況についてインタビュー調査
- ◆ ①英語試験免除、②点数換算 (みなし満点等)、③点数加算、等の分類毎又は組合せで調査

2. 全国国公立大学の学部の大学生

(主なターゲット層として、高校在学時に民間の資格・検定試験 (Cambridge English、英検、GTEC CBT、GTEC for Students、IELTS、TEAP、TOEFL iBT、TOEFL Junior、TOEIC、TOEIC S&W) のいずれかを受験した大学生を想定。)

- ◆ 大学受験を経験した大学生に対し、高校在学当時の意識を問う形式で実施
- ◆ 全国公私立大学事務局を通じて大学生に電子メールで周知、文科省調査として回答依頼
- ◆ 回答は特設ウェブサイトに入力してもらう (無記名・大学名記入・スコアの証明書等の添付なし)

(2) 調査研究の実施方法

調査研究の実施方法

- 各資格・検定試験団体との利害関係のない中立的なシンクタンク等に対し調査研究を委託して実施
- 調査の設計・結果の分析・検討を行うため、調査対象となる試験団体の代表者全員、大学入試センター、英語4技能試験に関する有識者委員等から成る検討委員会を設置。
- スケジュール：
 - ・ 9月 英語4技能連絡協議会（第1回）
 - － 調査設計等について議論
 - ・ 10月 調査研究委託契約
第1回検討委員会
 - － アンケート・インタビュー質問項目等について議論
 - ・ 11月～ アンケート発出、インタビュー調査実施
 - ・ 12月 アンケート回答締切、結果分析
 - ・ 2月 第2回検討委員会
 - － 報告書とりまとめ
 - ・ 3月 英語4技能連絡協議会（第2回）に報告

(3) 質問項目のイメージ

質問項目のイメージ

対象者	内容
<p>1 (a) 大学事務担当者向け (アンケート質問項目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○活用している民間の資格・検定試験名、試験方式（一般、AO、推薦等） ○活用の規模（対象とされる学部、学生定員数） ○民間の資格・検定試験の活用の方法（みなし満点、加点方式等） ○具体的な合否／加点等のライン設定 ※公開資料からも入手可能 ○活用開始時期（予定含む） ○活用している理由・していない理由 等
<p>1 (b) 大学事務担当者向け (インタビュー質問項目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○民間の資格・検定試験の活用にあたっての考え方 ○アドミッション／カリキュラム／ディプロマ・ポリシーとの関連性 ○民間試験の導入・具体的な合否／加点等ライン設定の意思決定プロセス ○今後の展望・課題 等
<p>2 大学生向け (アンケート質問項目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○高校生（1～3年）当時に受験した民間の英語の資格・検定試験名、時期及び得点 ○各資格・検定試験の受験の目的（大学入試への活用／留学／高校活動の一環／個人のスキルアップ等） ○各資格・検定試験の結果の大学入試への活用の有無 ○試験結果を大学入試に活用した／しなかった理由 ○試験結果を大学入試に活用するための条件（みなし満点か加点方式か等） ○各資格・検定試験を活用している大学入試に関する情報の入手方法（大学入試要項／高校等での指導／受験情報誌／試験団体等からの情報等） 等

(4) 調査のアウトプットのイメージ

1. 大学における活用事例調査 ((a) アンケート方式及び(b)インタビュー方式)

(a) 大学における活用状況の統計データ

- 活用の規模についての傾向 (全学 / 1 学部で実施、一般 / AO / 推薦入試で実施 等)
- 活用の方式の分類ごとの傾向 (受験資格付与、みなし満点、加点方式 等)
- ライン設定についての考え方・傾向 (e.g. 加点方式の + 10 点ラインはテストAの〇～〇点の範囲 等)
- 活用のスケジュール、課題、今後の展望 (平成〇年度までに実施 / 検討中 / 既に実施)
- 活用している / していない理由 (受験者数確保 / 4 技能ができる学生の確保 / 受験機会の公平性・コスト / テスト結果の信頼性等) 等

(b) 大学における活用事例集

- アドミッション / カリキュラム / ディプロマ・ポリシーと民間試験の入試への活用を連動させた事例紹介
- 受験者や在学生の英語力のレベル等を分析した上で民間試験の導入 / 合否ライン設定等を決定した学内手続きの事例紹介
- CEFRとの対照関係等を踏まえて民間試験の入試への活用を行った事例紹介 等

2. 大学受験生の民間試験の活用に関する意識調査

- 高校 (1 ~ 3 年生) 在学当時の民間の英語の資格・検定試験の受験に関する傾向
- 民間試験の受験の目的の傾向 (大学入試への活用 / 留学 / 高校活動の一環 / 個人のスキルアップ等)
- 試験結果の大学入試への活用の状況 (受験生の〇〇%が活用 等)
- 大学入試へ活用した / しなかった理由 (自由記述の内容の分析等)
- 大学入試へ活用しなかった受験生にとっての活用のための条件 (みなし満点か加点方式か 等)
- 情報の入手方法の傾向 (大学入試要項 / 高校等での指導 / 試験団体からの情報等) 等

(5) 調査結果の活用方法のイメージ

様々な大学における**民間試験の活用方法**、受験者層や合否ライン設定等の**分析の手法**、**アドミッション／カリキュラム／ディプロマ・ポリシーとの関連づけ**等の取組み事例について、**大学関係者へ情報提供**

(「活用事例集」として全国公私立大学に配布)



大学入学者選抜における民間試験の活用にあたっては、

- ・ 各団体の公表する各試験とC E F Rとの対照表
- ・ 各試験の受験者の得点分布を踏まえた合否ライン等の設定
- ・ アドミッション／カリキュラム／ディプロマ・ポリシーと連動した活用

等の多様な情報・手法が参考になる旨のメッセージを広く発信